

山田発

三陸復興みらい館



急ピッチで進む三陸沿岸道路の工事状況を住民に紹介する「三陸復興みらい館」が山田町豊間根にオープンしました。道路の建設業者12社

による協議会が整備したもので、館内には道路の概要とともに工事の進捗状況や工法がパネルで紹介されています。「三陸復興みらい館」は2017年度まで設置され、開館時間は毎日午前9時半から午後5時までです。(8/5 ニュースエコー)

陸前高田発

「うごく&けんか」七夕

陸前高田市では夏の風物詩「うごく七夕まつり」と「けんか七夕まつり」が行われました。高田町では七夕飾りで彩られた町内10の祭組の山車が、普段は立ち入り禁止になっている旧市街地に集結し、引き手も観客も変わりつつある町の姿と山車の運行を目に焼き付けていました。また気仙町では、900年の歴史を持つといわれる「けんか七夕」が行われました。合図とともに山車同士がぶつかる、激しく鳴り響くお囃子が「けんか」を盛り上げていました。(8/7 ニュースエコー)



宮古発

体験交流事業

宮古の豊かな自然生態系を知ろうと、宮古市と災害援助協定を結んでいる東京都品川区の人たち60人が、カキ養殖の作業を体験しました。



宮古市が日本財団の協力で企画したもので、参加者はカキ養殖施設でロープについた海藻などを刈り取りました。津波で壊滅的な被害を受けた宮古湾のカキ養殖は震災前の水準にまで回復しています。説明にあたった漁家は「森、川、海が育む豊かな環境がカキの成長の源になっている」と話し、参加者は海の復興を実感していました。(8/9 ニュース)

山田発

震災から4年5か月



東日本大震災の発生から4年5か月にあたる8月11日、沿岸被災地では警察による行方不明者の一斉捜索が行われました。未だ148人の

行方が分かっていない山田町の船越地区では、宮古警察署の署員19人が捜索にあたり、津波によって破壊された防潮堤が今も生々しく残る中、砂やがれきを掘り起こしては手がかりを探していました。(8/11 ニュースエコー)

大船渡発

津波伝承紙芝居

東日本大震災の津波を次の世代に伝えていこうと、紙芝居が大船渡で制作されました。「大船渡津波伝承館」の取組みで、原作は大船渡市在住の永野紀久子さんです。紙芝居は、明治三陸大津波のあと地域を挙げて高台移転した大船渡市三陸町吉浜を題材にした「吉浜のおゆき」など4作です。今後、さらに6つの紙芝居を作成するほか、DVD化して市内の小学校などに配布する予定です。(8/11 ニュースエコー)



陸前高田発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は大船渡「FMねまらいいん」の田村華恵さんが、6月に開設されたHP「オオフナコ」について伝えてくれました。「オオフナコ」は『大船渡市在住』か、『大船渡がスキ! 気になる!! 女子』=大船娘(オオフナコ)で制作しています。「大船渡はどこにあり、どんなところ?」そうした疑問をサイトを見てもらう事で少しでも減らしたら...という思いで誕生したこのHP、「食べる キレイ 遊ぶ」3つの大きな項目に分かれています。随時「大船娘」を募集しながら、紹介するお店も徐々に増やしていきたいとのことでした。

(8/12)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibt.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122